



学校だより

夢中がいっぱい左近山の子

～つながる学び（知）・つながる仲間（徳/体）・つながる地域・未来（公/開）～

令和5年6月29日

Sakonama 横浜市立左近山小学校

7・8月

「運動の楽しさ、喜びを」

副校長 上床 健太

6月は、体育の時間を中心に体力テストを行いました。どの子も一生懸命に取り組んでいる姿が見られました。その様子を見ていると「記録が〇〇cm伸びたよ。」「やった!ボールが〇m飛んだ。」などと自己の記録の伸びや、よい記録が出せた喜びの声が聞こえてきました。また、1・6年、2・5年、3・4年のペア学年で、反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、長座体前屈、握力を行いました。一生懸命に各種目に取り組む下級生の生き生きとした姿、下級生に丁寧に動きを教えたり、動きの手本を示したりする優しい上級生の姿が見られ、とても穏やかな気持ちになりました。この異学年のふれあいは、サポートしてもらう下級生はもちろんのこと、サポートする側の上級生にとってもよい経験となったと思います。

さて、2020年大会の前の東京オリンピックが開催された1964年に始まった文部科学省の体力・運動能力調査によると、身長、体重などの「体格」の向上に相反して、1985年頃をピークに子どもの体力は低下しているそうです。近年は幾分戻ってきているようですが、運動に親しむ子とそうでない子の二極化が見られてきているようです。低下の要因は、生活様式、習慣の変化など様々なことが考えられますが、子どもたちが自然に体を動かしながら知らず知らずのうちに運動能力を身に付けていけるような環境が減ってきていることも要因の一つとして考えられます。

私が子どもの頃（私が田舎育ちだからかもしれませんが）の遊びは、とにかく走り回り、体を思い切り動かして遊ぶ遊びが多かったので、遊びの中で体を動かすことの楽しさや喜びを自然と味わい、それが運動（スポーツ）に親しむ気持ちにつながっていったように思います。しかし、今の子どもたちをとり囲む環境はそうではないのかなと思います。そのような状況の中で、体力を維持増進していくために大切になってくるのが、子どもたちが体を動かすことが楽しいと感じ、積極的に（自然に）運動に親しむ気持ちを育ていくことだと考えます。

そのような気持ちを育ていく機会の一つとして、体育の時間をはじめとする学校での生活があります。学習指導要領体育科の目標の中で育てたい資質能力の一つとして「運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度」ということが示されています。つまり、学校体育が目指すものは一流のアスリートの育成ではなく、みんなが生涯に渡って運動に親しみ、そこから得られる楽しみ、喜びを豊かな生活につなげていくことです。そのため、体を動かすことの心地よさ、それまでできなかった動きができるようになることの喜び、仲間とともに運動することの楽しさが味わえるような体育学習を目指して様々な工夫を取り入れながら、日々の授業に取り組んでいます。コロナ禍で制限されていた運動時の人との接触の制限もなくなりました。これからは、運動の楽しさの一つである他者と共に味わう楽しさも思い切り味わうことができます。

6月からは、水泳学習も始まりました。数年ぶりの水泳学習です。4年生以下は初めての水泳学習です。まずは、安全第一、そして、水に浮く喜び、泳ぐ楽しさが味わえるよう水泳学習に取り組んでまいります。そして、運動への親しみが子どもたちの生活を豊かにできるよう、支援していきます。

【留守番電話設定】平日 17時15分から翌朝7時45分までは留守番電話を設定しています。